

文化財を訪ねる かみのかわ山さな旅

田川を歩く

先月号では鬼怒川の周辺を紹介しましたが、今月号は田川周辺を紹介しましょう。田川は、日光市から宇都宮市内を流れ、結城市付近で鬼怒川に合流する河川です。上三川町では、町やや西よりをほぼ南北に流れています。現在は穏やかに流れる田川ですが、河川改修工事をするまでは、カーブが多い流路であったため、何度も決壊を繰り返し、上三川・石橋間の県道が水没することもよくありました。暴れ川であった田川も、鬼怒川と同様サイクリングロードも現在整備されており、安心して歩けます。それでは、北から田川周辺の見所を紹介しましょう。田川の周辺は田園地帯となっており、広大な水田が広がっています。西側は台地形が発達しており、その上には、多くの遺跡が存在します。まず、町の北端の上神主には、奈良時代を中心とした、当時の河内郡役所の跡と考えられる上神主・茂原官衙遺跡があるほか、県内最大規模の浅間神社古墳をはじめ、狐塚古墳、後志部古墳など多くの古墳があります。田川によって形作られた、豊かな実りを生み出す土地が、当時の権力者たちを支える基盤になっていたのです。

田川の近くには、鎌倉時代から戦国時代にかけての史跡も多くあります。上神主から田川を南に下ると、県道羽生田・上蒲生線にぶつかりますが、この北東側一帯には、上三川城初代城



穏やかな風景が広がる田川周辺には多くの史跡があります

主横田頼業の玄孫の横田（落合）親綱によって築かれた、落合館と呼ばれる城館がありました。更に南に進み、西側に延命院と呼ばれる寺院が見えてきます。ここにも、築館と呼ばれる多功城八代城主多功満朝の弟、多功（築）朝光によって築かれた城館がありました。このほかにも、築館の西の大山には大山館、石橋駅の東側一帯には天神館というように、田川周辺には、多功城や上三川城を支えた重臣たちの居館が点在していました。今でこそ、田川は暴れ川の面影はありませんが、土木技術が発達していなかった昔でも、人々は川の近くに住むなど、川は無くてはならない存在でした。これを機会に川沿いをゆっくりと歩いてみませんか？今まで気づけなかった、郷土の姿が見えてくるかも知れません。

た報短歌

- 青き空白く機影の北をさし
初日をうけて点となりゆく
齋藤アツ子
- 陽だまりの葉かげに一輪藪椿
寒さに閉じし心ほころぶ
齋藤アツ子
- 高みなる鎮守の森の参道の
暗みに滲む 垂水絶えなく
稲葉 敬子
- 黒豆の湯気のはのかに七輪の
燠火しらしら夜の更けにけり
稲葉 敬子
- ひと気なき暮れの工事に大き影
落とすクレーン音なく眠る
稲葉 敬子
- 大宙に真に伸びたる大銀杏
薬師の杜に極まりにけり
高田 幸子
- 濃き緑まとう銀杏の黄葉に
今日の命をもやす朝やけ
高田 幸子
- 赤松の緑の裾の大平の
山脈雄々し朝の陽に顕つ
武藤 ひさ
- 落葉踏む背に春日のやはらけく
僅かに延びし一日を和む
武藤 ひさ
- 寒に入り踏みし落葉の伝いくる
土に還れる 音のかそけく
菊地 美代